

第65回
定期代議員総会
5月10日(土)9時30分
大和市渋谷学習センター

厚木爆同

【発行】
厚木基地爆音防止期成同盟
 発行責任者 石郷岡 忠男
 事務所 大和市桜森3-5-3
 フォント1F
 TEL 046-240-7450
 FAX 046-261-5615
 bakudou@kanagawa.email.ne.jp

今年も大変な厚木基地

厚木爆同委員長 石郷岡 忠男



厚木爆同も今年65年目を迎え、新たな2025年が始まります。

私達が日頃から願っている静かな空の実現は、なかなか叶いません。今年はどうな変化が私達に降りかかってくるのか不安です。

厚木基地関連では、横須賀が母港になっていた原子力空母ロナルド・レーガンが本国に帰り、同じく原子力空母ジョージ・ワシントンが2度目の任務に就きました。

ジョージ・ワシントンは装備を一新。艦載機も、4つの戦闘攻撃

飛行隊のうち1つの飛行隊の戦闘機がF A 18からF 35Cに替わり、

連絡機がC 2からオスプレイに替わりました。F 35Cは空母が止まっている時でも活動ができる垂直離着陸戦闘機で、いつでもどこでも行動を起こすことができます。

オスプレイは一昨年屋久島沖で墜落して、全世界で飛行停止を行った航空機です。昨年11月に米本國でも事故を起こし、再度飛行停止を行った航空機です。

連絡機オスプレイは一応所属は岩国基地となっていますが、厚木基地にも頻繁にやってきます。オスプレイが空母艦載機である限り、

不当判決に抗議 東京高裁に控訴

第五次厚木基地爆音訴訟は昨年11月20日横浜地裁で判決が出されました。

第四次訴訟では全国で初めて飛行差し止めを認めた横浜地裁の判決という事で、大いに期待を持っていたのですが、結果は第四次の最高裁判決をそのまま持つて来たような、不当な判決となってしまいました。

第五次訴訟では途中で艦載機の岩国基地移転が行われ、その影響もろに出ました。全原告の6割以上が

私達の頭上に安全はありません。米国では、民主党のバイデン大統領から共和党のトランプ大統領に替わりました。

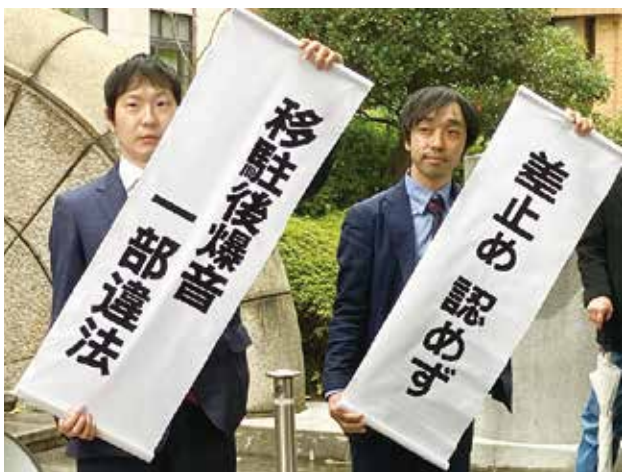
今世界中で、小さい紛争から国を挙げての戦争状態になっているところが沢山あります。

トランプ大統領は世界中の争いを瞬時に解決すると豪語してしまっている。日本にある米軍基地にも変化はあるのでしょうか心配です。

今年も厚木基地を取り巻く状況はいろいろ大変です。

第五次厚木基地爆音訴訟は、横浜地裁での判決が出ましたが、私達にはとっては納得が行くものではありませんでした。控訴した東京高裁での巻き返しに期待します。

これからも皆さんと協力して、より良い年になりますよう、努力を重ねて参ります。



間1万1540回の騒音が記録されています。岩国基地移転後の厚木基地は日米共同訓練にとどまらず、多国間

厚木爆同学習会 NHK受信料問題

昨年11月24日、大和市生涯学習センターで福田護弁護士を講師にお招きし、NHK受信料問題の学習会を開催しました。開始時間前から会員が集まり、早いうちに会場がいっぱいになるほどで、NHK受信料問題が会員の関心が高いことを改めて実感される学習会でした。

学習会ではまず、受信契約の有無と訴訟提起の状況について説明がありました。2017年の最高

裁判決以降、契約世帯は増え、支払い率も高くなりました。しかし、その後訪問営業活動が低下し、支

の共同演習の時にも、後方支援部隊としての使用が増えて

います。私達は厚木基地の存在自体が色々な方面で障害になって

いる事を認識しています。あきらめる事なく、これからも闘いを続けて行きます。

第五次訴訟団では判決後すぐに、東京高裁への控訴の手続きをしました。闘いの場を東京高裁に移して、勝利のための準備を進めて行きます。

東京高裁で、勝利宣言が出るように闘いを強めて参ります。これからも力を合わせて共に頑張りましょう。ご協力をよろしく



多くの会員が参加したNHK学習会

払い率も最高裁判決前の水準に戻りました。2023年からは割増金制度がスタートしましたが、この年の契約世帯も支払い世帯も増えてはいません。

訴訟提起の状況も、ここ数年減少傾向です。訴えられるという心配はほとんど考えなくて良いということ

です。次に未契約の場合の対応について、契約済み不払いの場合の対応について説明がありました。宛名なし封筒については無視しても

心配はありませんが、簡易裁判所からの封筒は無視せず開封し、厚木爆同に連絡するようお話がありました。

最後に、多くの質問があり、福田弁護士には丁寧に答えていただきました。

ご支援ありがとうございました

衆議院選挙厚木爆同会員推薦当選者



神奈川12区
あべ ともこ
 (藤沢市・寒川町)



神奈川13区
太 ひでし
 (大和市・綾瀬市・瀬谷区)



滑走路の南北で騒音測定 長時間飛行が明らかに

15分以下の間隔で 4時間も続けて飛行

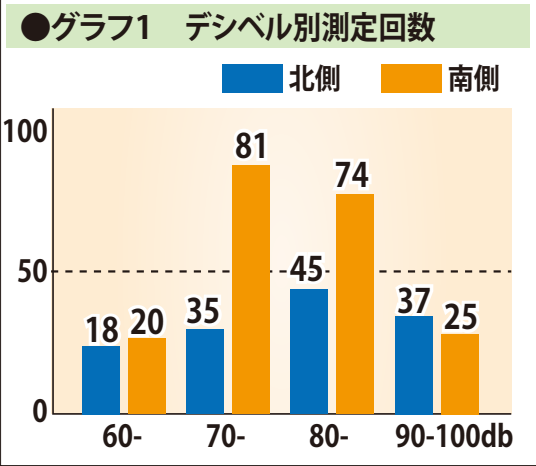
昨年の騒音測定・航空機目視は、第五次爆音訴訟原告団と協力して、横須賀を母港とする原子力空母が交代して、ジョージ・ワシントンが入港する直前の11月11日(月)から15日(金)に掛けて、午前11時半から午後3時半まで4時間、厚木基地滑走路北側の「緑の広場44号」と南側の「ゆとりの森」の2カ所で、二交替各2人体制で行いました。

一昨年は滑走路北側だけで測定しましたが、昨年は滑走路の北側と南側で測定しましたので、それぞれの特徴が見えて来ました。

騒音が大きい北側

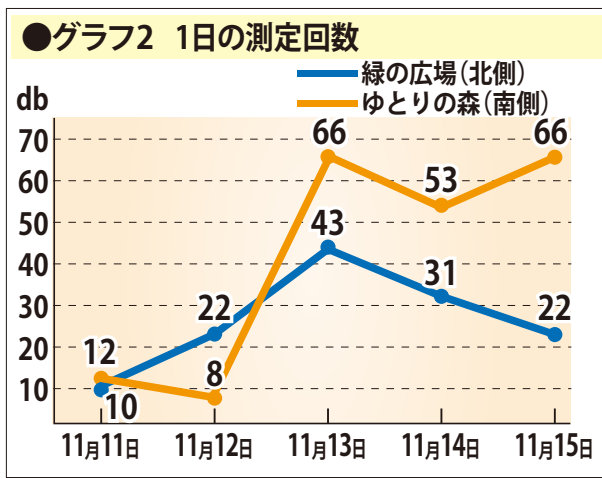
北側は 90デシベルを越える騒音が37回と多く測定されました。

南側の騒音は70〜90デシベル台が中心ですが、155回もあります。(グラフ1参照)

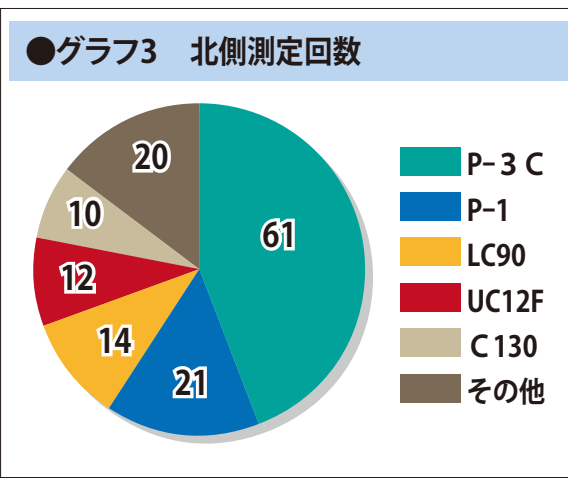


飛行回数が多く南側

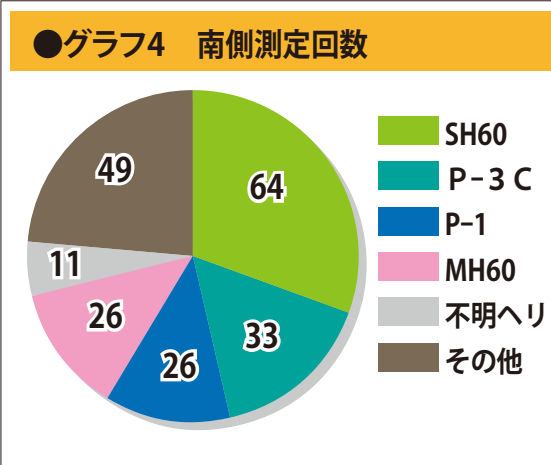
南側は飛行回数が多く、66回が2日ありました。(グラフ2参照)



北側騒音の主な発生源はP3CとP1哨戒機



南側騒音の主な発生源はヘリコプター機とP3C、P1哨戒機



●連続飛行時間

(1時間以上続けて飛行した時間帯を表示しています)

| 側 | 月日 | 飛行回数 | 時間帯 | 連続飛行時間 |
|----|-----------|------|-------------|--------|
| 北側 | 11月12日(火) | 28 | 11:27~13:19 | 1時間52分 |
| | 11月13日(水) | 43 | 11:43~15:30 | 2時間47分 |
| | 11月14日(木) | 26 | 11:18~13:23 | 2時間5分 |
| | 11月15日(金) | 22 | 12:32~15:28 | 2時間54分 |
| 南側 | 11月11日(月) | 8 | 12:30~13:31 | 1時間 |
| | 11月13日(水) | 66 | 11:39~15:29 | 3時間50分 |
| | 11月14日(木) | 53 | 11:30~15:30 | 4時間 |
| | 11月15日(金) | 66 | 11:32~15:30 | 3時間58分 |

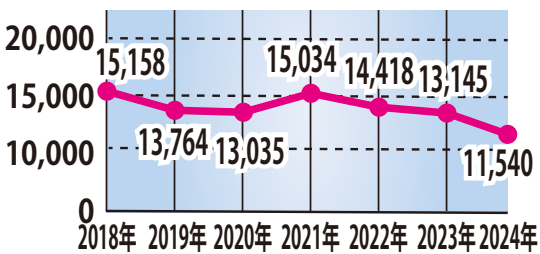
4時間も続く飛行が南側で3日
北側は、2時間以上も続く飛行が3日ありました。

年間騒音1万1540回を記録

苦情件数が増加

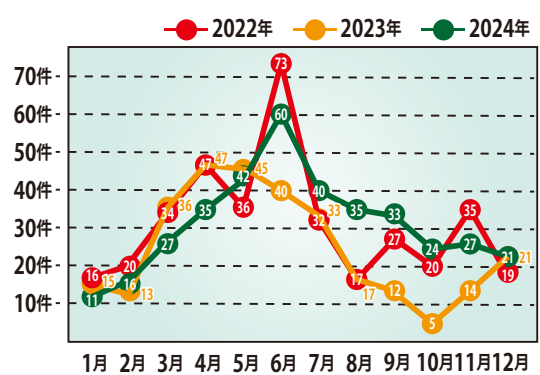
2024年

●厚木基地北1Km地点の年間騒音測定回数の推移



●厚木基地に関する苦情件数の推移(大和市)

| 月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 2022年 | 16 | 20 | 34 | 47 | 36 | 73 | 32 | 17 | 27 | 20 | 35 | 19 | 376 |
| 2023年 | 15 | 13 | 36 | 47 | 45 | 40 | 33 | 17 | 12 | 5 | 14 | 21 | 298 |
| 2024年 | 11 | 16 | 27 | 35 | 42 | 60 | 40 | 35 | 33 | 24 | 27 | 21 | 371 |



このことから、決して騒音が少ない。

このような中、昨年の厚木基地滑走路北側1km地点での年間騒音測定回数は70dB以上の騒音が5秒以上の継続音は11,540回を記録し、月別では1000回を超える騒音が発生しています。

前回の通りいかに激しい旋回飛行訓練が、特定地域で長時間にわたって実施されていることから、住民からの抗議と苦情件数が増加したと考えられます。違法騒音を解消させ、静かな空を取り戻すため、引き続き力を合わせて取り組んでいきましょう。

厚木爆同は、長年にわたる爆音の解消活動や行動、そして爆音裁判闘争の結果、2018年に米空母艦載機を岩国基地へ移転させることができました。空母艦載機の移転により100dBを超える甚大な騒音は減少しましたが、70dB以上の騒音測定回数は空母艦載機の移転前とそれほど変わっていません。

このことは、米軍と自衛隊のヘリコプター機による低空での周回飛行や、米軍P-8哨戒機、C-130輸送機と、自衛隊P-1哨戒機、P-3C哨戒機による旋回飛行訓練が連日長時間にわたり繰り返され、住民は3分から5分間隔で騒音被害を受け、多大な影響を受けているのが現状です。

このことは、グラフ・図表からも明らかのように年間騒音測定回数の2022年と2024年を比較してみますと2024年は2,878回も減少しているにも関わらず、苦情件数は2022年と変わらない件数(371件)となっています。

厚木爆同は、長年にわたる爆音の解消活動や行動、そして爆音裁判闘争の結果、2018年に米空母艦載機を岩国基地へ移転させることができました。空母艦載機の移転により100dBを超える甚大な騒音は減少しましたが、70dB以上の騒音測定回数は空母艦載機の移転前とそれほど変わっていません。

また、住民から大和市に寄せられた騒音に関する2024年の苦情件数(371件)は、2023年(298件)より大幅に増加しているとともに、2022年(376件)と同様の苦情件数となっています。

このことは、グラフ・図表からも明らかのように年間騒音測定回数の2022年と2024年を比較してみますと2024年は2,878回も減少しているにも関わらず、苦情件数は2022年と変わらない件数(371件)となっています。

また、住民から大和市に寄せられた騒音に関する2024年の苦情件数(371件)は、2023年(298件)より大幅に増加しているとともに、2022年(376件)と同様の苦情件数となっています。